

令和元年度大妻女子大学卒業式式辞

本日、大妻女子大学を卒業される皆さん、ご卒業まことにめでとうございます。大妻女子大学の教職員一同とともに、皆さんに心よりお祝いを申し上げます。また、長い間、お嬢様方の本学での勉学をお支えいただきましたご家族や関係者の皆様にも、お礼とお祝いを申し上げます。

皆さんの4年間ないし2年間の学生生活はどうだったでしょうか。大妻女子大で過ごした日々のことを思い出してください。皆さんは、大学にどのような思いや期待、あるいは夢を抱いていたでしょうか。現在、その思いは叶えられたでしょうか。あるいは、全く違った思いや夢を持つようになったでしょうか。

これから皆さんは、新しい環境で新しい生活をスタートさせることになります。会社員になる人もいるでしょう。公務員になる人もいるでしょう。保育士さん、幼稚園や学校の先生になる人もいるでしょう。大学院に進学する人もいるでしょう。皆さんは、新しい環境で、新しい仕事を覚え、新しい人間関係をつくっていくことになります。

21世紀に入って、わが国の女性の仕事をめぐる環境は大きく変化しました。日本の女性就業構造の特徴とされたM型雇用、すなわち大学や短大を卒業して就職したのち、結婚や出産を機にいったん退職し、子供が一定の成長を遂げたのちに、もう一度働きに出るというM型雇用は、ほぼ解消に近づき、定年まで働く女性が増えています。グローバル化とAIの進展を背景に、これまで存在していた総合職と一般職という女性の職種区分も急激に縮小しています。

1999年6月には男女共同参画基本法が成立し、「職場、家庭、地域などのあらゆる場で、男女が対等の立場であらゆる分野の政策立案や決定に参画できる社会を実現する」という課題が掲げられました。2015年8月には女性活躍推進法が成立し、「自らの意思によって働き又は働こうとする女性が、その思いを叶えることができる社会、ひいては、男女がともに、多様な生き方、働き方を実現でき、ゆとりがある豊かで活力あふれる社会の実現を図る」ことを課題としています。女性たちの活躍の場を広げていこうという方向が、政策としては、21世紀に入ってはっきり示されるようになったということができます。

眼を世界に広げれば、女性の活躍の場は、さまざまな領域で広がっています。昨年12月、フィンランドでは、34歳のサンナ・マリン氏が新首相に選出され、女性主導の内閣が誕生しました。ドイツのメルケル首相ほか、バングラディシュ、ノルウェー、ナミビア、ミャン

マー、セルビア、アイスランド、バルバドス、デンマーク、ベルギーでも、現役の女性首相が活躍しており、ネパール、中華民国、エストニア、シンガポール、トリニダード・トバゴ、エチオピア、ジョージア、スロバキア、ボリビア、ギリシャでは、女性が現役の大統領です。

経済の世界でも、IMF の専務理事からヨーロッパ中央銀行 ECB の総裁に転じたクリスティーヌ・ラガルド、アメリカ連邦準備制度理事会 FRB 前議長のジャネット・イエレン、YouTubeCEO のスーザン・ウォジスキ、FacebookCOO のシェリル・サンドバーグ、GMCEO のメアリー・バーバラなど、多くの女性が活躍しています。研究の世界でも、女性の活躍は大きく進んでおり、アメリカ、カナダ、EU、オーストラリアなどの主要 12 地域中 9 地域で、女性研究者の割合が 40%を超えるまでになっています。

こうした世界の動向のなかで、残念ながら、日本は、やや立ち遅れを見せています。世界経済フォーラムが国別の男女格差を示すジェンダー・ギャップ指数を毎年発表していますが、昨年 12 月に発表されたこの指数で、日本は 121 位となりました。ジェンダー格差が少ない 1 位から 5 位までは、アイスランド、ノルウェー、フィンランド、スウェーデン、ニカラグア、その他、ドイツ 10 位、フランス 15 位、カナダ 19 位、英国 21 位、米国 53 位、イタリア 76 位で、日本は G7 の中で圧倒的に最下位だったのです。中国は 106 位、韓国は 108 位で、日本より上でした。

この指数が、何を指標としているかといいますと、経済面での参加度や参加機会、教育の達成度、健康と生存、政治的活躍度の 4 つです。このうち、日本は、読み書き能力、初等教育、出生率ではジェンダー・ギャップが最も少ない国、世界 1 位だったのですが、中等教育、高等教育、労働所得、政治家・経営管理職、教授・専門職、国会議員数ではいずれも 100 位以下、経済分野でも、賃金格差 67 位、労働力参加 79 位、所得 108 位と、政治や経済の分野での立ち遅れが目立っており、このことが、世界経済フォーラムでは男女格差の大きさと判断されているのです。

こうした現状を克服し、女性が働きやすく生きやすい社会に変えていくことが必要です。本学もそうした努力を続けたいと考えていますが、その時に指標となるのは、創設者大妻コタカの「女性の自立」という考え方です。100 年以上も前、日露戦直後の時期に、コタカは、それまでの「エリート」でもなく、「中流以上の女子」でもなく、社会の中で何ら特別でない、ごくごく普通の女性が「社会的に自立するとはどういうことか」を考え続けて、大妻技芸学校の設立を決意しました。戦前の日本では、女性が社会の中で自分自身を確立することは、現在に比べ、はるかに困難でした。そうした状況の中、コタカは「女性の自立」のための独自の戦い方を、女性が社会に受け入れられやすい手芸・裁縫といった「技芸を身に着ける」ことから始めようとしたのです。本学院は、創立以来「女性の自立のための女子一貫教

育」を建学の精神としていますが、その「自立」の根源には、こうした若き日の大妻コタカの独自の考え方と強い意思があったといえることができるでしょう。

「女性の自立」は、まずは、性差による差別を克服するような自立といえるでしょうが、目指してほしいのはその先です。「女性の自立」が「人間としての自立」であること、自己の尊厳を守る形での自立であること、すなわち「経済的自立」は、あくまで「精神的自立」を前提としたものであること、こうした自立を皆さんに追求していった欲しいのです。

そして、願わくは、そうした自立が、他の人々への強い共感に支えられたものであって欲しいと思います。他人の喜びを自分の喜びとし、他人の悲しみを自分の悲しみとし、他人の怒りを自分の怒りとできるよう、望みます。そして、これこそが、コタカの精神、コタカの望んだ生き方であったと思います。

茨木のり子という詩人に「学校 あの不思議な場所」という詩があります。その一部を読み上げます。

学校 あの不思議な場所
校門をくぐりながら蛇蝎のごとく嫌ったところ
飛びたつと
森のようになつかしいところ
今日もあまたの小さな森で
水仙のような友情が生まれ匂ったりしているだろう
新しい葡萄酒のように
なにかがごちゃまぜに醗酵したりしているだろう
飛びたつ者たち
自由の小鳥になれ
自由の猛禽になれ
(『茨木のり子集 言の葉 1』)

これから、皆さんが社会に飛びたつと、うれしいこと、楽しいこととともに、悲しいことやつらいことが、きっとおきてきます。そうしたときは、いつでも大学を訪ねてください。皆さんの母校は、皆さんの悩みや願いを、いつでも聞き入れ、少しでも力になれるよう努力します。

皆さんが、今後、多様な場で活躍されることを心から期待して、卒業のお祝いの言葉としたいと思います。

ご卒業おめでとうございます。

2020 年 3 月 20 日

大妻女子大学

大妻女子大学短期大学部

学長 伊藤正直